

# 4月の技術対策（水稻）

平成17年4月1日  
JAきたそらち・JA北いぶき  
空知北部地区農業改良普及センター  
雨竜西部地区農業改良普及センター

## 1 育苗管理の要点

### (1) 育苗様式別の温度管理

表1 育苗様式別の育苗管理の要点

育苗様式	成 苗		中 苗		
	は種～出芽揃	出芽揃～本葉1.5葉	は種～出芽揃	出芽揃～本葉1.5葉	
目 標	均一な出芽	根の発根促進	均一な出芽	根の発根促進	
管理の要点	二重被覆(シバ-ポリ)二重トシ(ポリフィルム)で保温、適水分を保つ。	夜間は二重トシで被覆し、十分なかん水で根を置床まで伸ばす。	二重被覆(シバ-ポリ)二重トシ(ポリフィルム)で保温、適水分を保つ。	苗床の水分過多を避けて乾燥に努める。	
管 理 内 容	基 準	昼 30～32 夜 10 以上	25 20 10 以上	30～32 10 以上	25 20 10 以上
	目 安	初めの位置で30～32にする。35 以上にしない。	本葉の葉先25 で換気、出芽揃後は25 から徐々に温度を下げる。	初めの位置で30～32にする。35 以上にしない。	本葉の葉先25 で換気、出芽揃後は25 から徐々に温度を下げる。
方 法	温度調節はハウスの肩換気で行う。高温時のみ二重トシを除去、低温時は二重被覆をいったん除去し地温上昇後に被覆する。被覆は出芽揃で除去する。	温度調節はハウスの肩換気とし、場合によっては裾換気もする。二重トシは夜間のみ使用する。	温度調節はハウスの肩換気で行う。高温時のみ二重トシを除去、低温時は二重被覆をいったん除去し地温上昇後に被覆する。被覆は出芽揃で除去する。	温度調節はハウスの肩換気とし、場合によっては裾換気もする。二重トシは夜間のみ使用する。	
か ん 水	基 準	ポット内の土に適度な水分を保たせる。	箱内の土に適度な水分を保たせる。		
	目 安	ポットの下までかん水が十分通っていること。	日中はポット内の土を乾かさないようにする。	乾かない程度にかん水する。	晴天時の早朝に十分かん水し、余分な水分は蒸発させる。
方 法	は種後のかん水は、3 回程度に分けて行う。	晴天時の早朝に2～3 回に分けてかん水し、ポットの下まで水を浸透させる。	は種直後は水を床土全体に浸透させる	かん水は一度に多量に行い、床土全体に浸透させる。早朝にかん水し、低温が予想される時や午後は避ける	

## (2) 育苗管理の共通的事項

- 温度計の設置～育苗ハウス毎に温度計を設置して温度管理を行ってください。大型ハウスで育苗する際は、温度計を数ヶ所設置してください。
- 入口を両側に設置～巻き上げハウスによる換気では、適正な温度管理をするために入口を両側に設置し換気をしてください。
- 防風網の設置～晴れて強風の日には十分な換気ができず高温傾向になります。強風時に適正な温度管理を行うために、防風網の設置を再考しましょう。

## 2 苗立枯病の防除

育苗中に低温・寡照が続くと苗立枯病(ピシウム菌・ガリウム菌)が発生する恐れがあります。苗立枯病を防止するために次の点に注意して管理してください。

### 苗立枯病を出さない管理とは!

低温時もハウス内を10 以下にしない。(二重トシで被覆する)  
育苗床の過湿・過乾を避ける。  
低温時も、朝はハウス内の換気を必ず行いその後保温する。

### 苗立枯病が発生・発生が心配

発生時:  
タチガレエース液剤 500倍  
箱当たり500mlかん注する。  
予防(天候不順の前に使用)  
タチガレエース液剤  
500～1,000倍  
箱当たり500mlかん注する。

## 3 育苗時の除草剤使用

本年から育苗中に使用できる「ヒエ専用除草剤」として、「クリンチャーEW」を地区の農作物病害虫・除草防除ガイドに掲載しました。

表2 水稻苗代除草剤

除草剤名	対象雑草	使用時期	散布量及び散布方法	注 意 事 項
クリンチャーEW	ノビエ	は種後10日～本葉5葉期まで	箱あたり1,000倍液を18ml散布	苗代での使用回数は1回。使用の際には展着剤を加用しない。

## 4 本田融雪水の早期排除

今年は、最近で最も積雪が多くなっています。例年以上に融雪促進を行っているとありますが、あわせて融雪水を早期に排除し水田の乾燥に努めてください。

暗渠の水こうを開放しているか確認してください。  
水尻を開放しているか確認するとともに、必要に応じ畦畔を切って融雪水を早く排水してください。  
水田がある程度乾いたら稲わらを持ち出して、水田の乾燥を促進してください。